令和7年8月20日
総務部
統計課 加工統計係
電話：027-226-2404　内線：2414

群馬県鉱工業指数
令和７年６月分

１．公表内容

６月の鉱工業生産指数（季節調整済）は、生産用機械工業などが低下したことから、２か月連続のマイナスとなった。

○概況
生産、在庫は低下、出荷は上昇で推移
◆６月の主な数値の動向（調査産業計）　（令和2年＝100）

	季節調整済指数			原　指　数		
	総合指数	前月比(%)		総合指数	前年同月比(%)	
生　産	１０５．２	▲ ０．６	２か月連続 －	１０７．６	▲ ３．２	２か月連続 －
出　荷	１０４．８	２．２	２か月ぶり ＋	１０７．７	１．８	２か月ぶり ＋
在　庫	１４７．９	▲ １５．０	３か月ぶり －	１５４．４	４．５	３か月連続 ＋
在庫率	１３２．６	▲ ３２．９		１３６．３	▲ １．９	

○生産指数は、季節調整済指数で、2か月連続のマイナス、原指数で、2か月連続のマイナスとなった。

○出荷指数は、季節調整済指数で、2か月ぶりのプラス、原指数で、2か月ぶりのプラスとなった。

○在庫指数は、季節調整済指数で、3か月ぶりのマイナス、原指数で、3か月連続のプラスとなった。

○総合指数前月比の伸び率（上昇又は低下）に影響を与えた主な業種　（）内は前月比
＜生産＞低下:生産用機械工業　（▲ 49.8 %）、輸送機械工業　（▲ 3.7 %）
＜出荷＞上昇:業務用機械工業　（128.8 %）、化学工業　（19.9 %）
＜在庫＞低下:化学工業　（▲ 28.9 %）、生産用機械工業　（▲ 9.9 %）

○前月比が最も大きかった業種
＜生産＞上昇:業務用機械工業　（162.8%）／ 低下:生産用機械工業　（▲ 49.8%）
＜出荷＞上昇:業務用機械工業　（128.8%）／ 低下:生産用機械工業　（▲ 29.7%）
＜在庫＞上昇:情報通信機械工業　（62.8%）／ 低下:輸送機械工業　（▲ 61.5%）

２．事業の概要

【目的】
県内の鉱業、製造業等の事業所における生産量、出荷量、在庫量の動態を調査し、指数化することにより、県内の産業活動の状況を総合的に把握し、景気動向の分析等のための基礎資料とする。

【作成方法】
令和２年（２０２０年）を基準年として、その鉱工業製品の１か月当たりの平均生産量、出荷量、在庫量を算出し、各品目の基準時ウェイトで加重平均して指数化する。

【各指数の品目数】
・生産指数・・・１７１品目
・出荷指数・・・１６４品目
・在庫指数・・・・９１品目
・在庫率指数・・・８４品目

≪参考事項≫
・季節調整済指数…1年を周期として季節が要因となり起こる変動(季節変動)を取り除いた指数をいう。
・原指数…季節調整をしていない指数をいう。

３．次回公表予定

令和７年９月末（令和７年７月分）

令和7年6月分

○総合指数前月比の伸び率に影響を与えた主な業種・品目

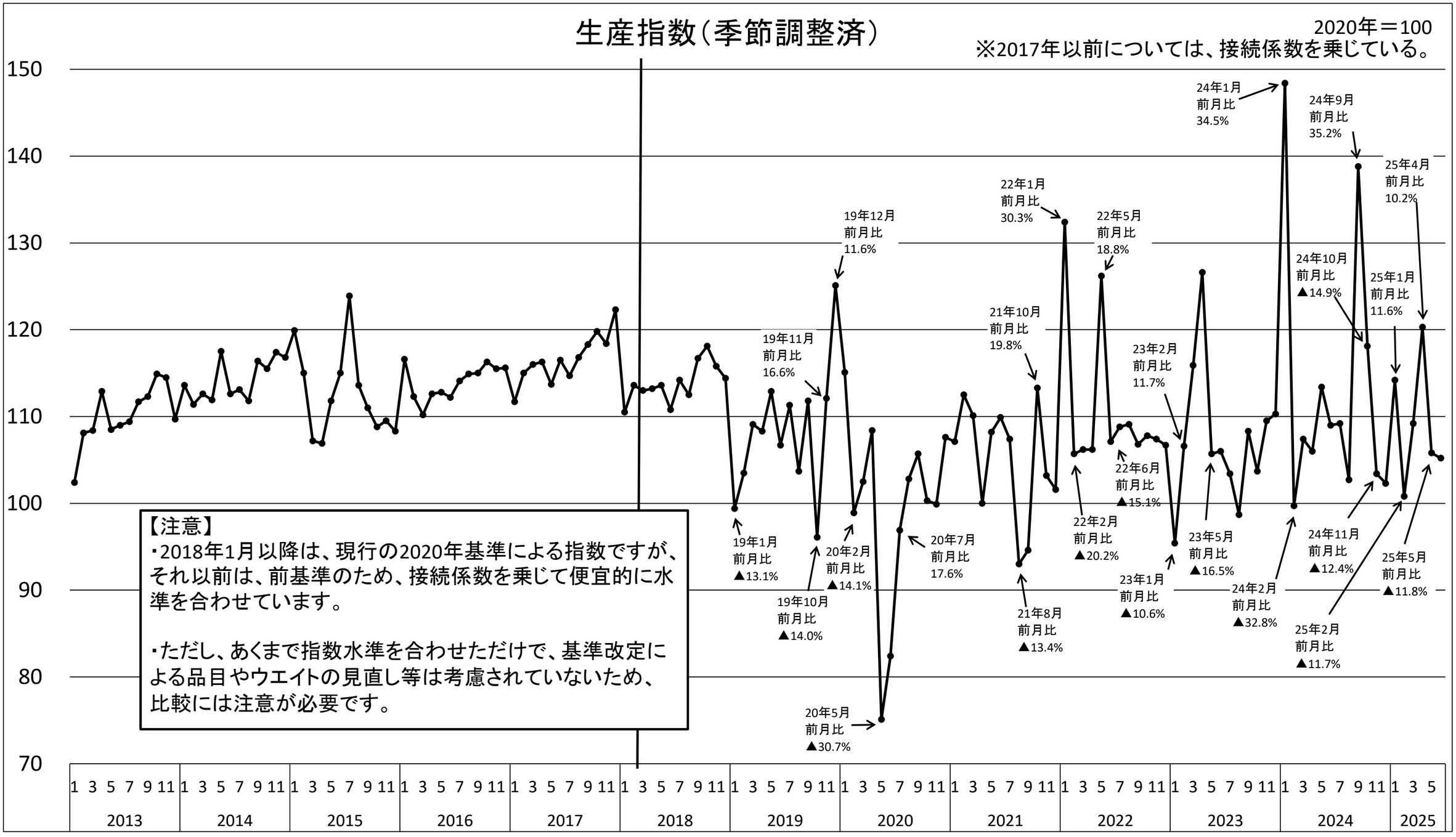
		業　　種	前月比寄与度	前月比%	寄与した主な品目	
生産	上昇	業務用機械工業	4.3	162.8	娯楽機器	
		食料品工業	0.3	2.1	めん類	清涼飲料
	低下	生産用機械工業	▲ 2.4	▲ 49.8	金型	研削盤
		輸送機械工業	▲ 0.9	▲ 3.7	普通乗用車	排気管・消音器
		プラスチック製品工業	▲ 0.4	▲ 5.2	プラスチック製機械器具部品	プラスチック製包装用フィルム
出荷	上昇	業務用機械工業	3.9	128.8	娯楽機器	自動販売機
		化学工業	1.5	19.9	医薬品製剤	
	低下	生産用機械工業	▲ 1.1	▲ 29.7	金型	半導体製造装置用関連装置
		輸送機械工業	▲ 0.7	▲ 1.9	普通乗用車	ワイパー
		電気機械工業	▲ 0.6	▲ 8.2	半導体・IC測定器	開閉制御装置
在庫	上昇	汎用機械工業	0.7	7.5	コンデンシングユニット（7．5kW以上）	吸収式冷凍機
		情報通信機械工業	0.2	62.8	ボタン電話装置	
	低下	化学工業	▲ 14.7	▲ 28.9	医薬品製剤	
		生産用機械工業	▲ 1.0	▲ 9.9	ショベル系掘削機械	研削盤

（注）寄与した主な業種・品目の掲載順序は、上昇、低下とも寄与の大きい順である。一部秘匿あり。

○前月比が最も大きかった業種

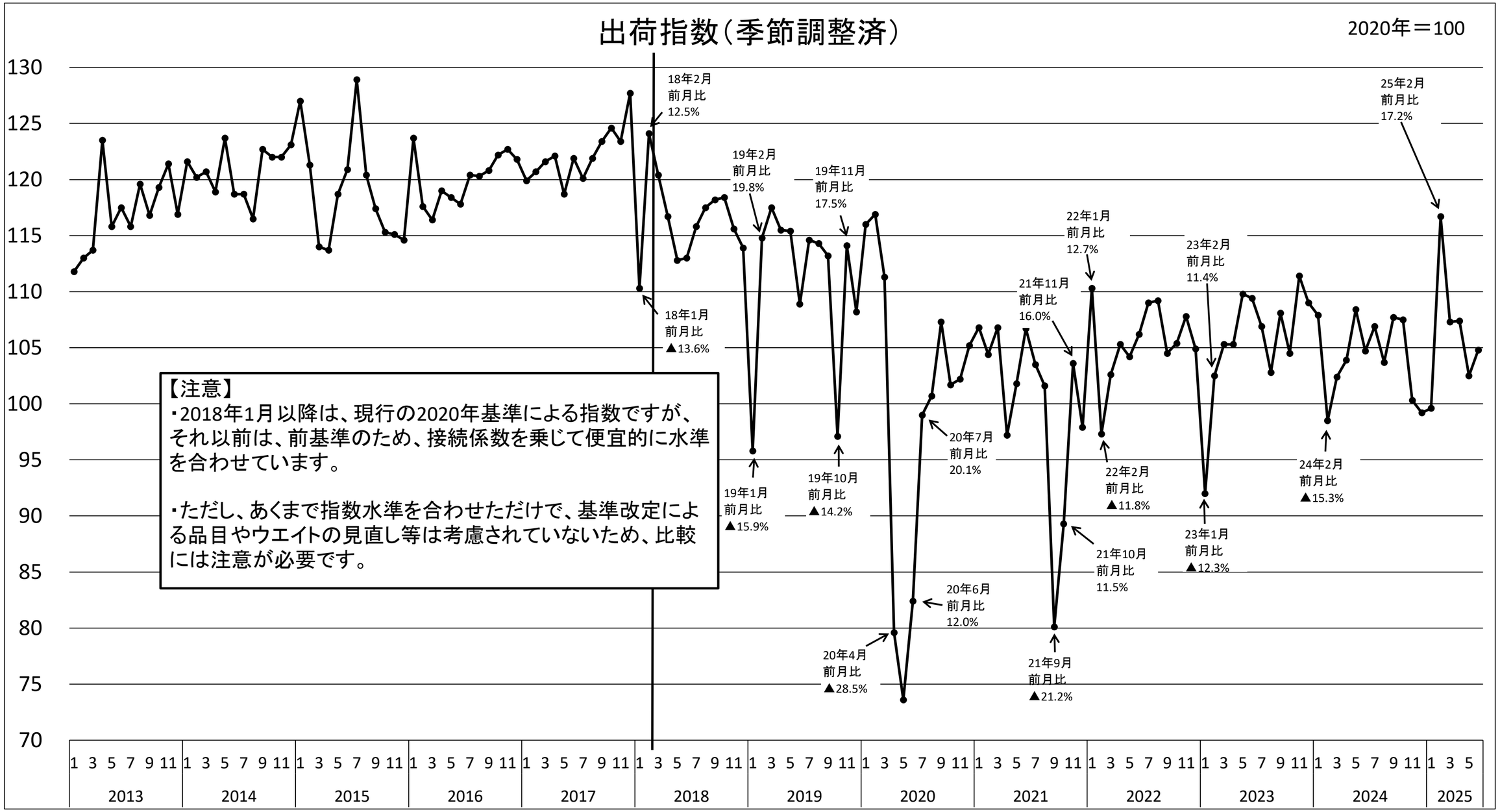
		業　　種	前月比寄与度	前月比%	寄与した主な品目
生産	上昇	業務用機械工業	4.3	162.8	娯楽機器
	低下	生産用機械工業	▲ 2.4	▲ 49.8	金型
出荷	上昇	業務用機械工業	3.9	128.8	娯楽機器
	低下	生産用機械工業	▲ 1.1	▲ 29.7	金型
在庫	上昇	情報通信機械工業	0.2	62.8	ボタン電話装置
	低下	輸送機械工業	▲ 0.3	▲ 61.5	普通乗用車

○群馬県鉱工業指数の動き



2015年基準：2013年～2017年　2020年基準：2018年～2022年　2025年基準：2023年～2027年（予定）

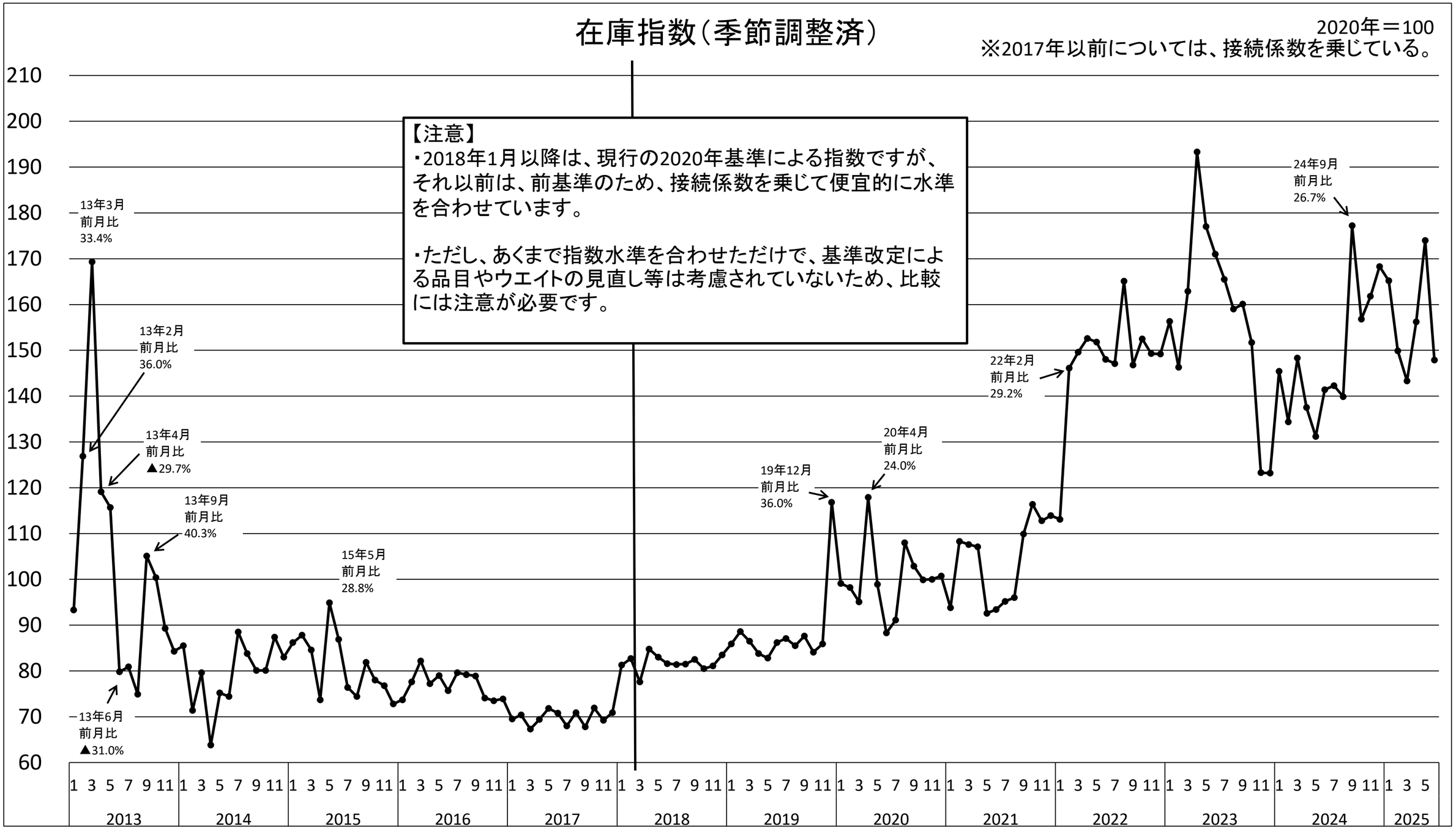
※2023年以降の指数については、2025年基準改定（2028年度頃実施予定）の際に、2025年基準で遡及して再計算する予定です。2025年の基準改定までは、2020年基準による指数を作成します。



【注意】
・2018年1月以降は、現行の2020年基準による指数ですが、それ以前は、前基準のため、接続係数を乗じて便宜的に水準を合わせています。

・ただし、あくまで指数水準を合わせただけで、基準改定による品目やウエイトの見直し等は考慮されていないため、比較には注意が必要です。

2015年基準：2013年～2017年　2020年基準：2018年～2022年　2025年基準：2023年～2027年（予定）
※2023年以降の指数については、2025年基準改定（2028年度頃実施予定）の際に、2025年基準で遡及して再計算する予定です。2025年の基準改定までは、2020年基準による指数を作成します。

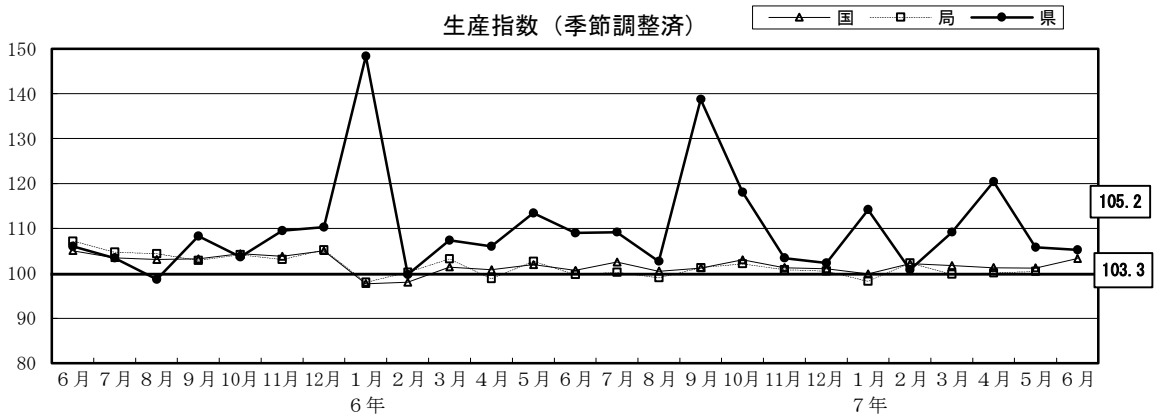


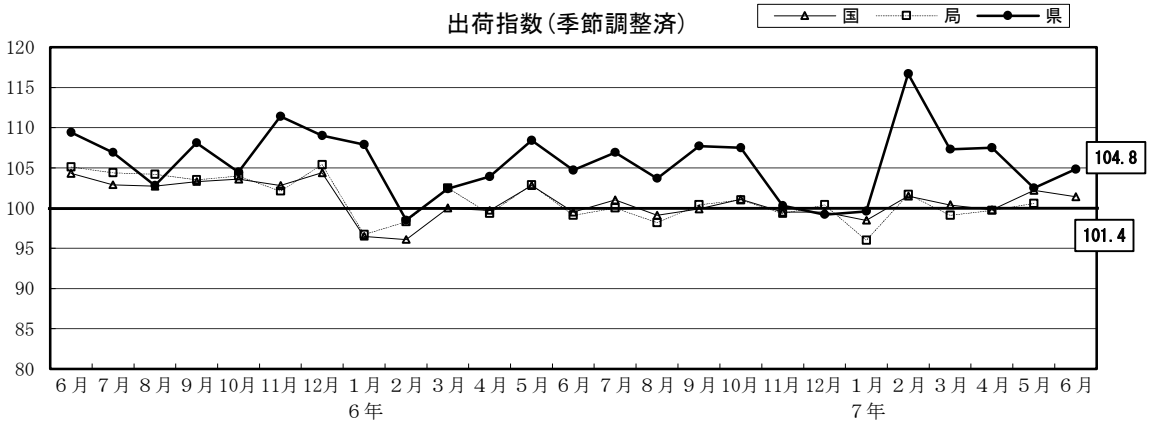
2015年基準：2013年～2017年　2020年基準：2018年～2022年　2025年基準：2023年～2027年（予定）

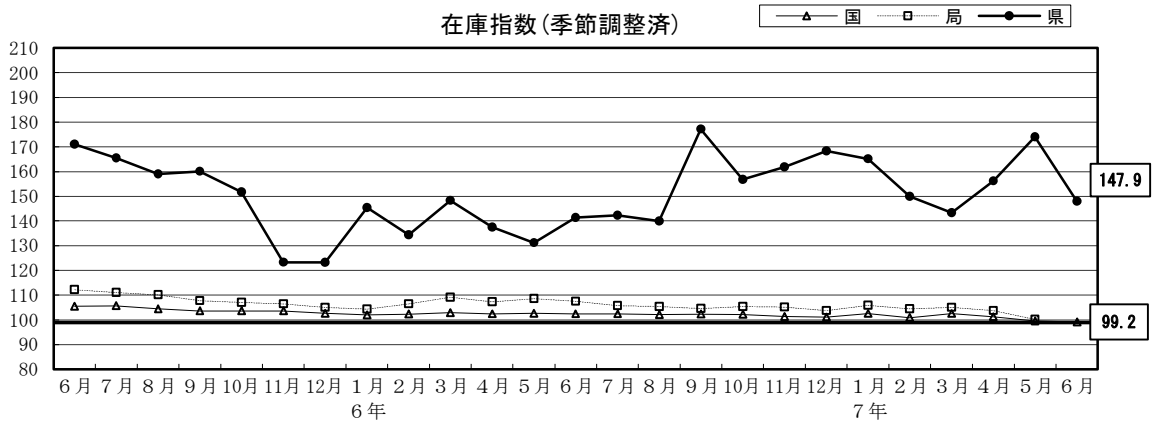
※2023年以降の指数については、2025年基準改定（2028年度頃実施予定）の際に、2025年基準で遡及して再計算する予定です。2025年の基準改定までは、2020年基準による指数を作成します。

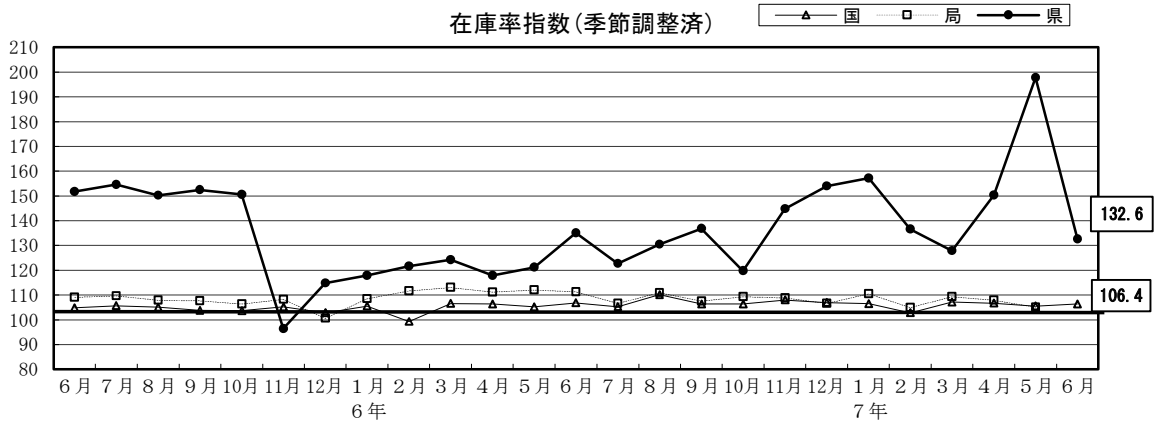
○　全国・関東経済産業局との比較

2020年＝100



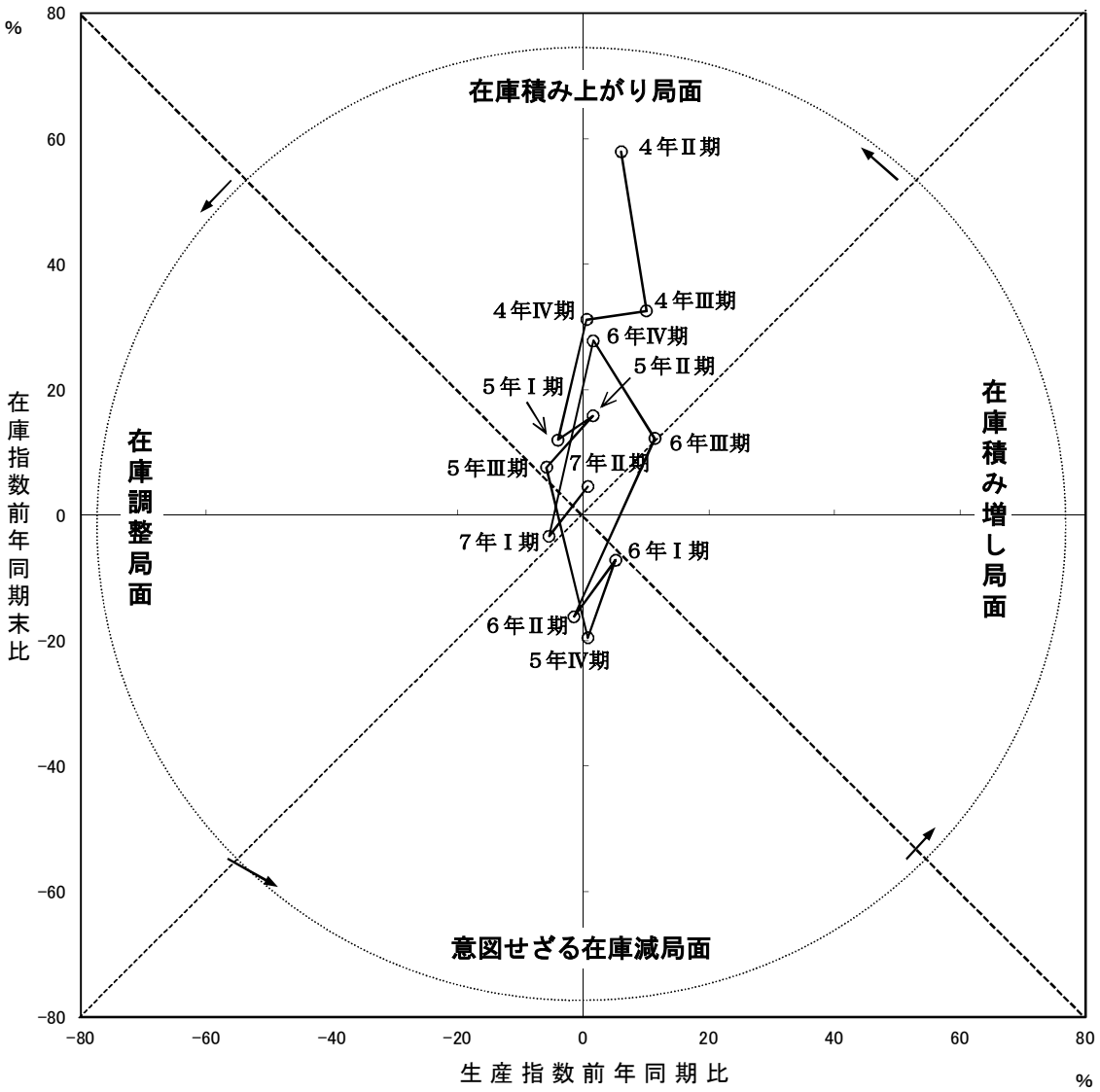






関東経済産業局6月分の公表予定日は、8月20日（水）です。
公表後は、下記で指数を確認できます。
https://www.kanto.meti.go.jp/tokei/kokogyo/index.html

○　在庫循環図



意図せざる在庫減局面 （景気拡大初期）	需要が回復し、出荷が増加し始めるが、生産は停滞しており、在庫は減少する。
在庫積み増し局面 （景気拡大期）	生産、出荷ともに好調に推移し、減少していた在庫も積み増しされる。
在庫積み上がり局面 （景気後退初期）	生産に比べ、出荷が減少し始め、在庫が積み上がる。
在庫調整局面 （景気後退期）	生産を調整することによって、在庫が減少する。